



1 第 776・778 号土壤 (第 501 图)



2 第 783 号土壤 (1) (第 502 图)



1 第783号土壙(2)(第502·503图)



2 第783号土壙(3)(第503图)



1 第 783 号土壤 (4) (第 503・504 图)



2 第 785 ~ 787・795・797 ~ 801 号土壤 (第 504・505 图)



1 第 802・803・807～810 号土壌 (第 505 図)



2 第 811～813・816 号土壌 (第 505・506 図)



1 第 819・822～824・827・828・831・835 号土壤 (第 506・507 图)



2 第 820 号土壤 (第 507 图)



1 第1号遺物集中(1)(第512図)



2 第1号遺物集中(2)(第512図)



1 第1号遺物集中(3)(第513図)



2 第1号遺物集中(4)(第513図)



1 第2・3(1)号遺物集中(第514図)



2 第3号遺物集中(2)(第514図)



1 第4～6号遺物集中（第515图）



2 第7号遺物集中（1）（第515・516图）



1 第7号遺物集中(2)(第516図)



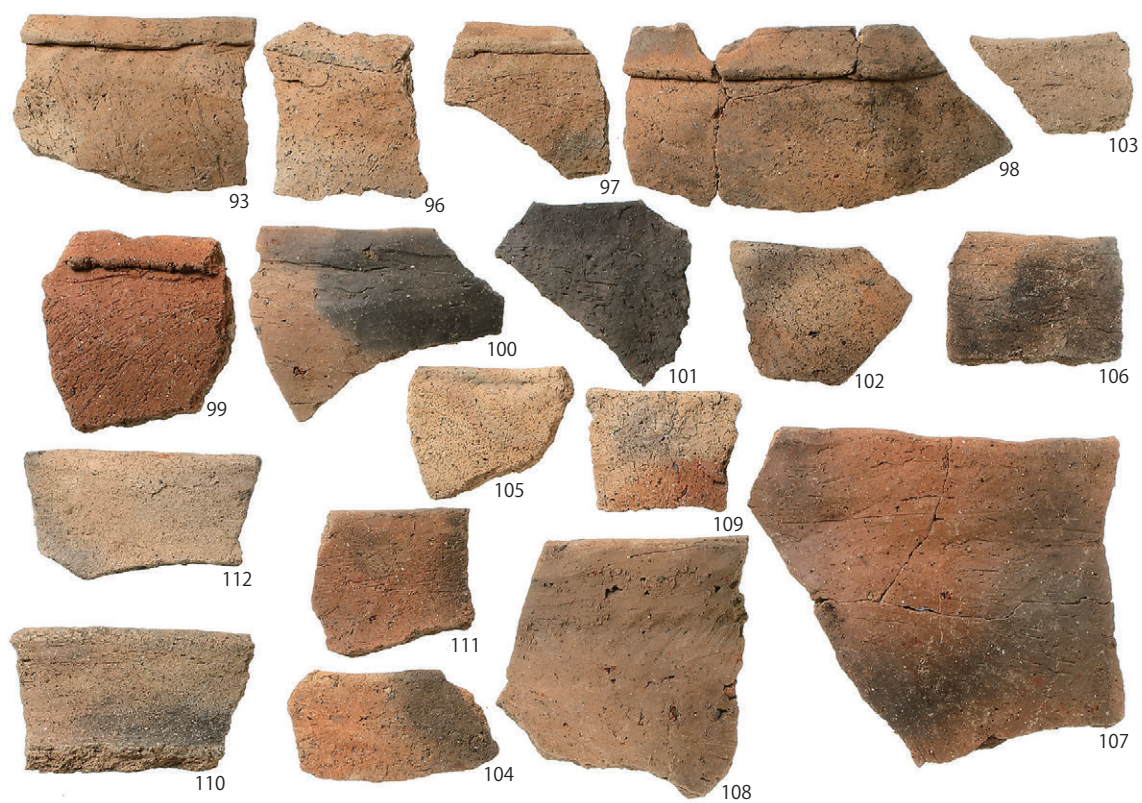
2 第7号遺物集中(3)(第516・517図)



1 第7号遺物集中(4)(第517・518図)



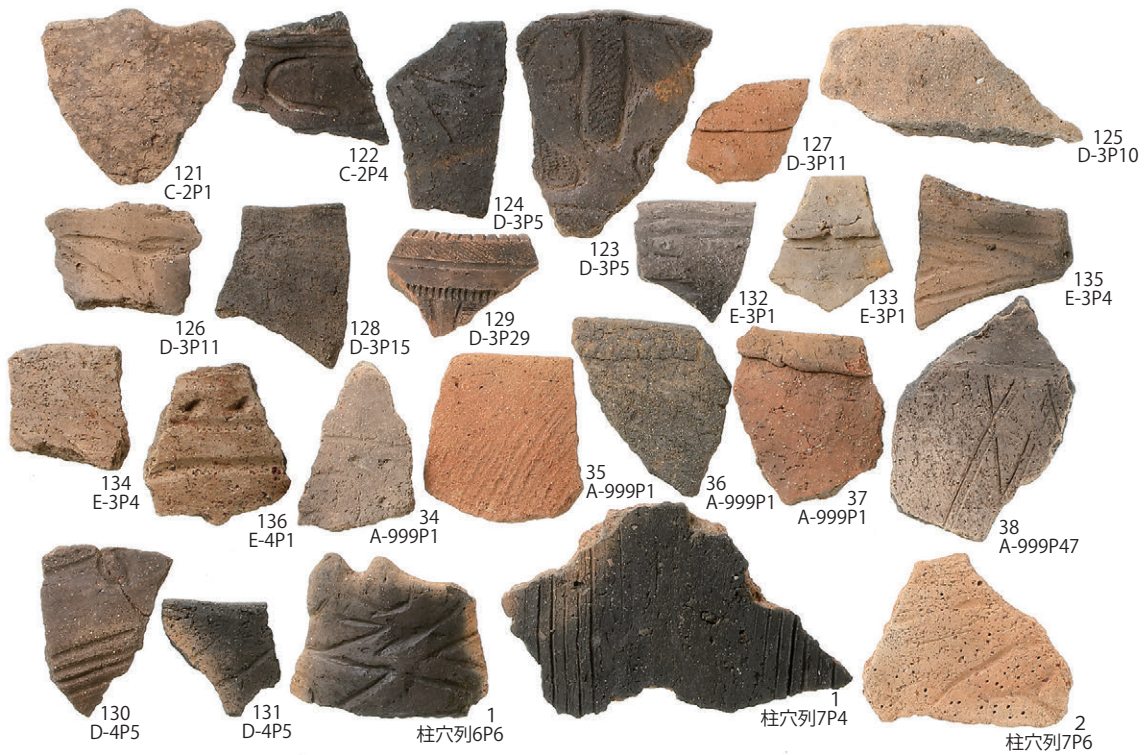
2 第7号遺物集中(5)(第518図)



1 第7号遺物集中(6)(第518・519図)



2 第7号遺物集中(7)(第519図)



1 第6・7号柱穴列（第521図）、グリッドピット（1）（第530・533図）



2 焼土跡（1）（第523・524図）



1 焼土跡 (2) (第 524 図)



2 第 15 号不明遺構 (第 526 図)



1 第 16 号不明遺構 (第 526・527 図)



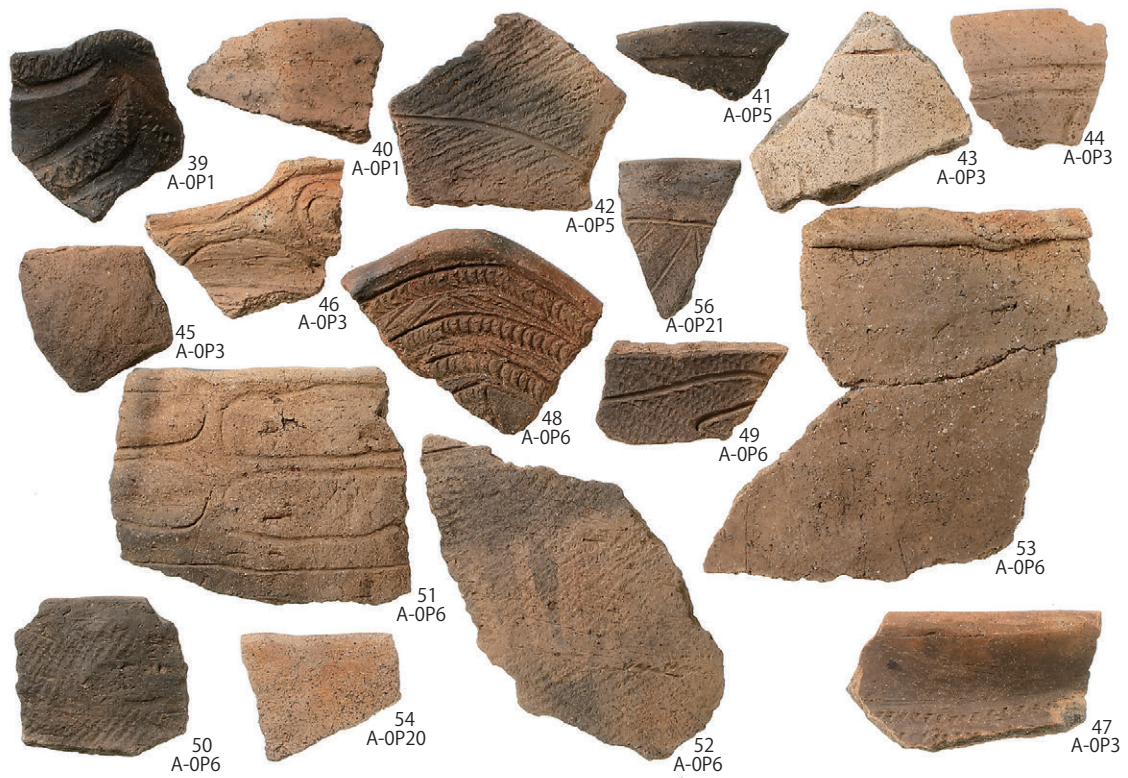
2 第 17 号不明遺構 (第 527 図)



1 グリッドピット (2) (第 529・530 図)



2 グリッドピット (3) (第 529・530 図)



1 グリッドピット (4) (第 530・531 図)



2 グリッドピット (5) (第 531 図)



1 グリッドピット (6) (第 532 図)



2 グリッドピット (7) (第 532・533 図)



1 グリッドピット (8) (第 532・533 図)



2 住居跡出土土製品 (1) (第 534・535 図)



1 住居跡出土土製品 (2) (第 536・537 図)



2 住居跡出土土製品 (3) (第 537・538 図)



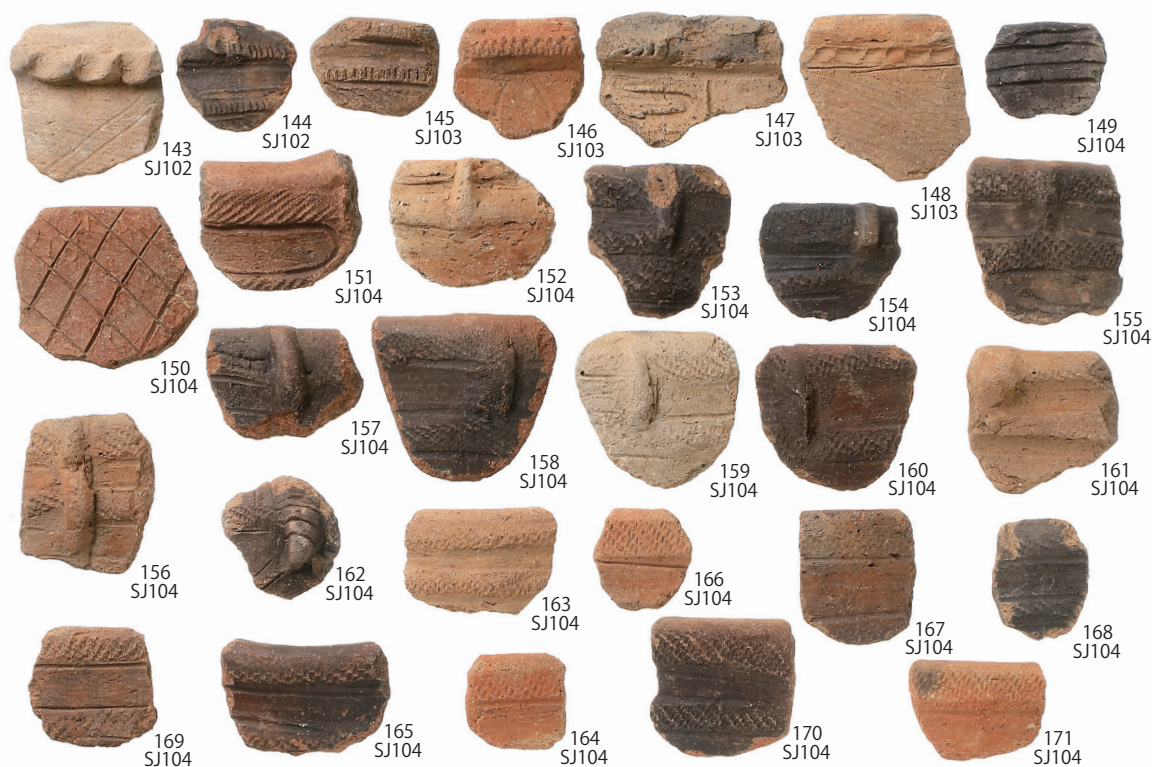
1 住居跡出土土製品（4）（第 539・540 図）



2 住居跡出土土製品（5）（第 540・541 図）



1 住居跡出土土製品 (6) (第 542 図)



2 住居跡出土土製品 (7) (第 543 図)



1 住居跡出土土製品 (8) (第 544 図)



2 住居跡出土土製品 (9) (第 545 図)



1 住居跡出土土製品 (10) (第 546 図)



2 住居跡出土土製品 (11) (第 547 図)



1 住居跡出土土製品 (12) (第 548 図)



2 住居跡出土土製品 (13) (第 549 図)



1 住居跡出土土製品 (14) (第 550 図)



2 住居跡出土土製品 (15) (第 551・552 図)



1 住居跡出土土製品 (16) (第 553・554 図)



2 竪穴状遺構出土土製品 (1) (第 555 図)



1 豎穴状遺構出土土製品 (2) (第 556 図)



2 豎穴状遺構出土土製品 (3) (第 557 図)



1 豎穴状遺構出土土製品（4）（第 558 図）



2 豎穴状遺構出土土製品（5）（第 559 図）



1 土壙出土土製品（1）（第 560 図）



2 土壙出土土製品（2）（第 561 ～ 563 図）



1 土壙出土土製品（3）（第 564 図）



2 土壙出土土製品（4）（第 565 図）



1 土壇出土土製品 (5) (第 566 図)



2 土壇出土土製品 (6) (第 567 図)



1 土壙出土土製品 (7) (第 568 図)



2 土壙出土土製品 (8) (第 569 図)



1 土壇出土土製品 (9) (第 570 図)



2 土壇出土土製品 (10) (第 571 図)



1 土壙出土土製品 (11) (第 572・573 図)



2 土壙出土土製品 (12) (第 573・574 図)



1 遺物集中出土土製品（1）（第 575 図）



2 遺物集中出土土製品（2）（第 576 図）



1 不明遺構（第 577 図）、グリッドピット出土土製品（第 578 図）



2 遺構出土石鏃（第 579 図）



1 遺構出土石錐・スクレイパー（石匙）（第 580 図）



2 遺構出土スクレイパー（第 581 図）



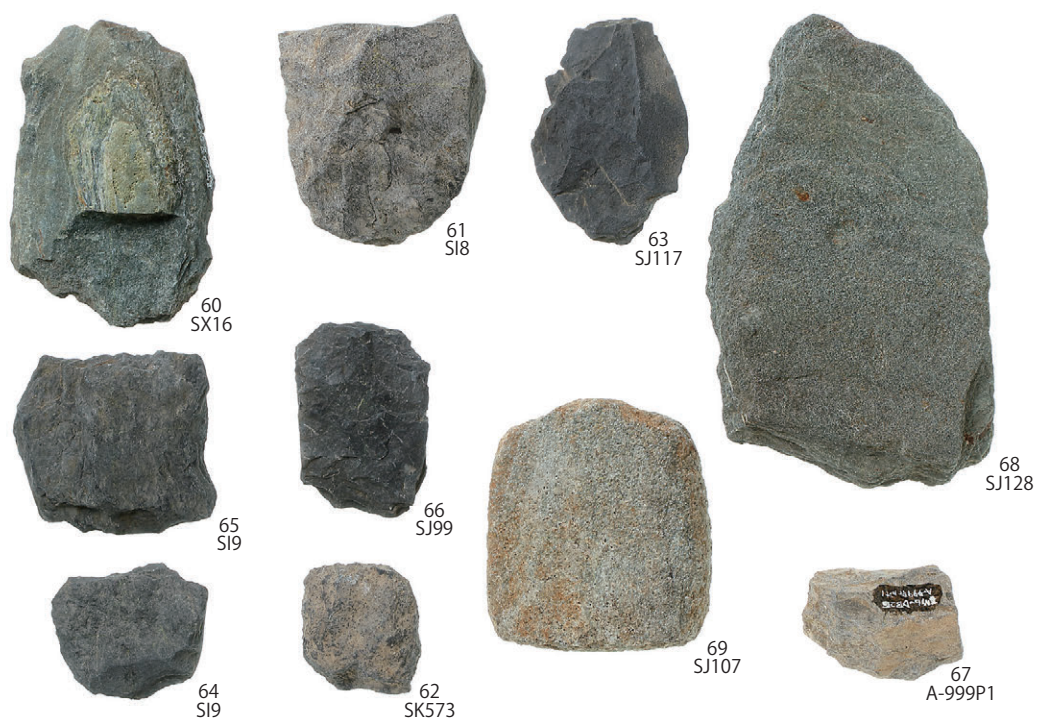
1 遺構出土二次加工剥片（第 582 図）



2 遺構出土礫器（1）（第 582 図）



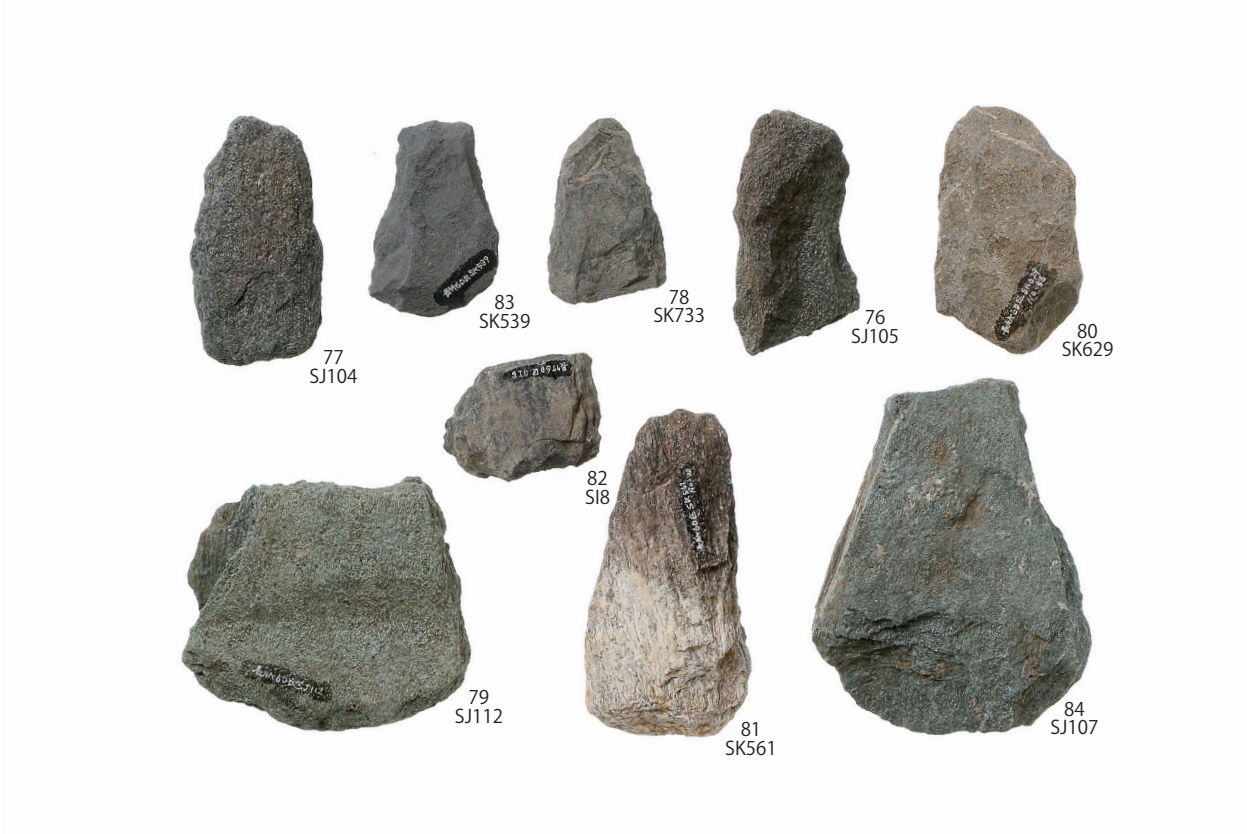
1 遺構出土礫器（2）（第 583 図）



2 遺構出土打製石斧（1）（第 584 図）



1 遺構出土打製石斧（2）（第 585 図）



2 遺構出土打製石斧（3）（第 586 図）



1 遺構出土打製石斧 (4) (第 587 図)



2 遺構出土磨製石斧 (第 588・589 図)



1 遺構出土砥石（1）（第 590 図）



2 遺構出土砥石（2）（第 591 図）



1 遺構出土砥石 (3) (第 592 図)



2 遺構出土砥石 (4) (第 593 図)



1 遺構出土敲石（1）（第 594 図）



2 遺構出土敲石（2）（第 595 図）



1 遺構出土敲石 (3) (第 596 図)



2 遺構出土磨石 (1) (第 597 図)



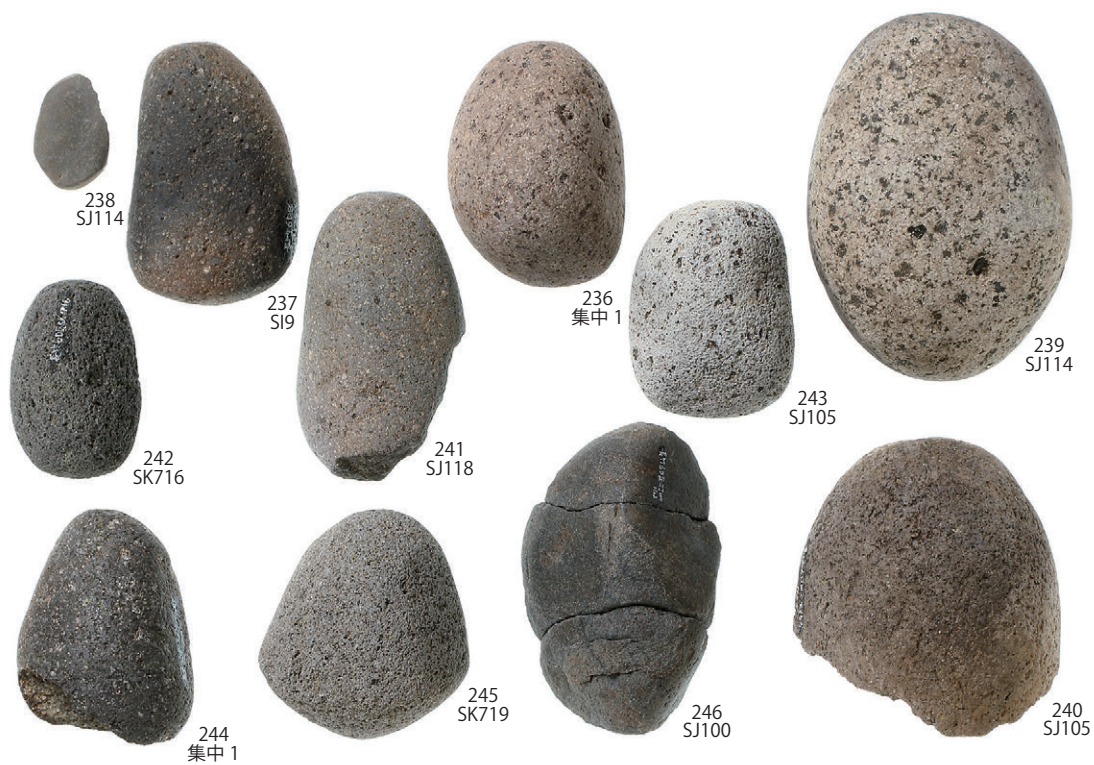
1 遺構出土磨石 (2) (第 598 図)



2 遺構出土磨石 (3) (第 599 図)



1 遺構出土磨石（4）（第 600 図）



2 遺構出土磨石（5）（第 601 図）



1 遺構出土磨石（6）（第 602 図）



2 遺構出土磨石（7）（第 603 図）



1 遺構出土磨石（8）（第 604 図）



2 遺構出土磨石（9）（第 605 図）



1 遺構出土磨石 (10) (第 606 図)



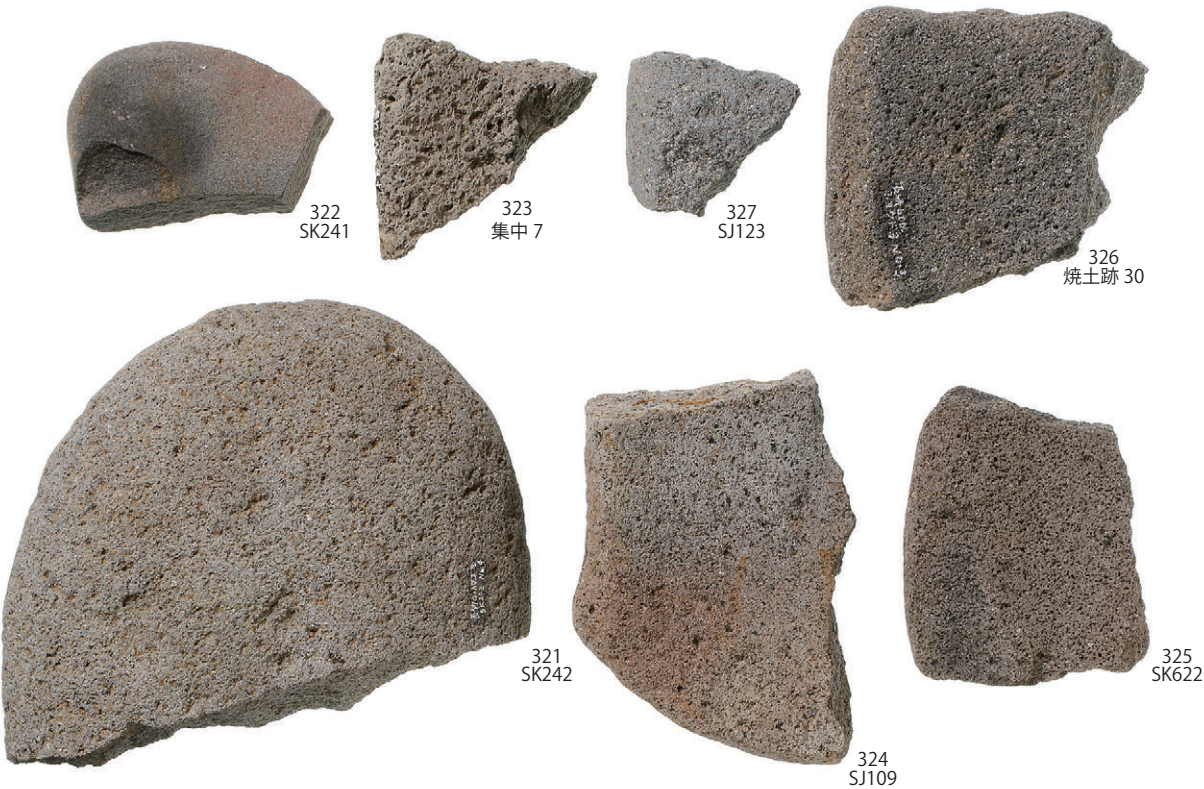
2 遺構出土石皿 (1) (第 607 図)



1 遺構出土石皿（2）（第 607 図）



2 遺構出土石皿（3）（第 608 図）



1 遺構出土石皿（4）（第 609 図）



2 遺構出土石皿（5）（第 610 図）



1 遺構出土石皿 (6) (第 611 図)



2 第 105 号住居跡出土石皿 (第 611 図 340)



344
SJ104



345
SJ121

1 遺構出土台石 (第 612 図)



2 第 112 号住居跡出土台石 (第 612 図 346)



1 遺構出土軽石 (第 613 図)



2 遺構出土石錘 (第 614 図)



1 遺構出土石棒（1）（第 614 図）



2 遺構出土石棒（2）（第 615 図）



1 遺構出土石剣（第 616 図）



2 第 105 号住居跡出土石剣（第 616 図）



1 遺構出土独鉦石・石冠（第 617 図）



2 遺構出土岩版・不明品（第 618 図）



1 遺構出土垂飾品 (第 618 図)



2 遺構出土骨製品 (第 619 図)

報 告 書 抄 録

ふりがな	ながたけいせき							
書名	長竹遺跡Ⅲ							
副書名	首都圏氾濫区域堤防強化対策における埋蔵文化財発掘調査報告							
シリーズ名	埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書							
シリーズ番号	第441集							
編著者名	吉田 稔 渡辺清志							
編集機関	公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団							
所在地	〒369-0108 埼玉県熊谷市船木台4丁目4番地1 TEL 0493-39-3955							
発行年月日	西暦2018（平成30）年3月22日							
所収遺跡	ふりがな所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
ながたけいせき 長竹遺跡 (第3・6次)	さいたまけんかぞしおお 埼玉県加須市大 あざおおこえあざひのくち 字大越字樋ノ口 620-1・702-1 ほか 他	11210	039	36°11'16"	139°36'47"	20120406～ 20130331 20140401～ 20150331	4,996.82	堤防建設
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
長竹遺跡 (第3・6次)	集落跡	縄文時代	住居跡 竪穴状遺構 土壌墓・土壌 柱穴列 埋甕 焼土跡 不明遺構 ピット 遺物集中	34軒 2基 361基 2基 3基 12基 4基 626基 7箇所	土器 土製品 石器 石製品 骨製品	縄文時代後・晩期に形成された環状盛土遺構の北側盛土遺構を調査した。盛土の径は190mに及び有数の規模である。 縄文時代後・晩期に営まれた住居跡は盛土の最も標高が高く、狭い範囲に集中していた。盛土の内縁側で検出された晩期の土壌墓群は企画性のある配置であった。		
要約								
長竹遺跡は、利根川沿いの埋没台地上に立地する縄文時代から近世にわたる複合遺跡である。今回の調査は縄文時代（第二面）の後期から晩期にかけて形成された環状盛土遺構のうち北側の盛土遺構から検出された遺構・遺物に関する報告である。 盛土外径は想定190mに及び、盛土の形成は環の内縁側から外縁側に向かって形成されていった。環の内縁側にある窪地は基盤土壌であるローム層が削平されたような状況であった。遺構は主に後期前葉から晩期中葉にかけて盛土の最も標高の高い範囲から集中して検出された。検出された34軒の住居跡は開始期にあたる後期前葉では、環の最も標高の高い部分から1軒のみ検出され、後期中葉から後葉にかけては環の外縁側に拡張し、軒数も増加していく。各住居跡は、同一地点内で拡張建て替えが頻繁に行われ、床面のかさ上げも行われている。 後期後葉の住居跡は南盛土で検出された最大規模の一辺12m級の「大形竪穴建物址」は、北盛土では検出されていないが、8m級の住居跡が検出されている。また、狭い範囲内での住居跡の重複が著しく後期後葉から晩期前葉にかけて最大7軒の住居跡が重複していた。 晩期に入ると規模が小形化し、軒数も減少している。各時期の住居跡のプランの変遷は南盛土と一部異なり、後期前葉の不整円形から後期中葉の楕円形へ変化し、後期後葉前半の隅円方形、後葉後半から晩期前葉までの方形プランへ変化する。晩期では、プランが崩れ、不整楕円形ないしは隅円方形で柱穴や入り口部の配置もやや大形の第105号住居跡を除いて規則的配置をとらない住居跡が検出されるようになる。晩期中葉に入ると、住居跡は検出されず、包含層に伴う焼土跡や環の内縁側から柱穴が検出される。 土壌は住居跡が密集する地域よりやや環の内縁側から検出され、円筒形で貯蔵穴が想定される土壌も検出された。また、盛土の内縁側傾斜面に沿って晩期の土壌墓が67基検出された。多くの土壌墓は長方形で大きく3グループに分かれていた。斜面の等高線に沿って配置される土壌墓と直角に配置される土壌墓があり、重複が著しい。また注口土器・浅鉢・台付鉢・深鉢形土器大形破片などの副葬品が伴い、墓壙の底面両端から小穴が検出された。 出土遺物は、縄文時代早期から晩期中葉にかけて膨大な量の遺物が出土し、日用雑器から、祭祀遺物、狩猟用具、加工具、装身具などに至るまで幅広く出土した。								

埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第441集

長 竹 遺 跡 III

首都圏氾濫区域堤防強化対策における

埋蔵文化財発掘調査報告

(第3分冊)

平成30年3月14日 印刷

平成30年3月22日 発行

発行／公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

〒369-0108 埼玉県熊谷市船木台4丁目4番地1

電話 0493 (39) 3955

<http://www.saimaibun.or.jp>

印刷／巧和工芸印刷株式会社